

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2016年7月16日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部/国際日本学科
留学先国	アメリカ
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: ネブラスカ大学オマハ校 現地言語: University of Nebraska at Omaha
留学期間	2015年8月～2016年5月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年5月18日
明治大学卒業予定年	2018年3月
<b>留 学 先 大 学 に つ い て</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月下旬～12月下旬 2学期:1月上旬～5月上旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	15,000名
創立年	1908年

留学費用項目	現地通貨(USD)	円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	5500	660,000円	
食費	2400	288,000円	
図書費	500	60,000円	
学用品費	100	12,000円	
教養娯楽費	2000	240,000円	
被服費	200	24,000円	
医療費	0	0円	
保険費	800	96,000円	形態:明治大学を通しての保険契約
渡航旅費	1500	180,000円	
雑費	100	12,000円	
その他		円	
その他		円	
その他		円	
合計	13,000	1,560,000円	

## 渡航関連

### 渡航経路:

(往路)成田国際空港→アブダビ国際空港→ジョン・F・ケネディ国際空港→オヘア国際空港→エプリーエアフィールド  
(復路)エプリーエアフィールド→シャーロット・ダグラス国際空港→ニューアーク国際空港→トロントピアソン国際空港→成田国際空港

### 渡航費用

チケットの種類	正規割引航空券
往路	1,000USD
復路	500USD
合計	1,500USD

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

トラベル子ちゃん、DeNAトラベル、Google Flights

## 滞在形態関連

### 1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学内の寮

### 2)部屋の形態

個室 OR  相部屋(同居人数 3人)

### 3)住居を探した方法:

ネブラスカ大学オマハ校の公式ホームページより

### 4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

寮は大学が運営・管理をしているため必要なものがすべてそろっていて、またホームステイなどと比べると安く滞在することができる場所であるためお勧めです。寮には多くの国からの留学生に加え、地元オマハの生徒も住んでいるため寮滞在限定のイベント等を通して、多くの友人を作ることが出来ます。私が一番多く友人関係を持ったきっかけは寮に滞在していたことかもしれません。今後ネブラスカ大学オマハ校への留学を検討している人にはぜひお勧めです！

## 現地情報

### 1)現地で病院にかかったことはありますか？大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？

利用する機会が無かった  
 利用した:

### 2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

初めに友達に相談をしました。友達からアドバイスをもらっても解決しない場合は、授業関係のことは International Students Office へ、寮関係のことは Resident Assistant に相談をしました。その他にも、ネブラスカ大学オマハ校には様々な相談窓口が設置されています。

### 3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

事前に国際日本学部設置の留学準備科目(海外留学入門 A/B)を受講し、留学を通して起こりうる問題・危険やその解決方法について学びました。また現地の友人からも危険情報の収集を行い、危険といわれている地域に近づかない・多額の現金を持ち歩かないなどの対策をとりました。実際に犯罪に巻き込まれたことはありませんでした。

### 4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学内では WiFi の接続環境が整っており、基本的にはどこからでもインターネットに接続することが出来ました。しかし、大学外では Free WiFi の無いところが多かったため、現地の携帯会社と契約し、どこでもインターネットが使えるようにしておきました。

### 5)現地での資金調達はどうに行いましたか？(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

主にクレジットカードで決済を行うことにより、事前に両替をしてきた現金のみで足りました。留学開始直後に現地の銀行口座を開設しましたが一度も使うことはありませんでした。

### 6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

基本的に何でも手に入りますが日本固有のもの(魚の缶詰・味噌汁・ふりかけ・のり・調味料など)は現地で調達するとかなり高くなってしまいますので持っていき、もしくは両親から送ってもらうのがいいと思います。

## 卒業後の進路について

1) 進路
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動へ向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。 もともと大学を卒業後は就職をしようと心に決めていましたが、英語圏の大学で1年間勉強したことで自分に自信が付き、海外の大学院等でさらに長い期間を研究活動に充てたいとも思うようになりました。まだ最終的に卒業後どうするのか、自分の中で結論は出ていませんが、留学は自分の進路を再考するきっかけとなることは間違いないと思います。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
27 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 27 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intro to the U.S. Economy	アメリカ経済入門
科目設置学部・研究科	College of Arts and Sciences
履修期間	2015 年 8 月~12 月
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Alan L Fanning
授業内容	マクロ・ミクロ経済学問わず経済の基本的な概念や仕組みを理解できる授業です。また、アメリカ経済の授業ということで専門用語を説明する際の例としてアメリカでおこった出来事が用いられたり、授業の日にアメリカ経済で起こったことが話題として紹介されたりします。
試験・課題など	学期内にテストは 3 回、課題はリーディングに加えてプリントで各単元ごとの内容の質問に答える形式でした。テストは人数が多い授業だったということもあり、期末試験を除いた 2 回のテストは記号選択の問題ばかりだったので、比較的楽な授業であったと言えます。
感想を自由記入	高校生の時から経済の授業が大好きで、大学入学時も政治経済か国際関係を専攻するかで悩んだ私にとって今回の留学中に経済の授業をとることが出来たのは本当に最高の機会でした。英語で経済学の授業をとるということで専門用語が理解できるかなど不安な点も多くなりましたが、1000 番台の 1 年生向け授業であったことと元々好きな分野であったことから気づけばあっという間に学期が終わっていました。日本の高校ではアメリカの高校と比べて経済について多く授業を行っているようで、高校で受けた経済の授業を理解できた人であるならば誰でも不安なく受講することが出来るかと思えます。先生も留学生に優しく、わからないところは授業後に懇切丁寧に教えてくださったのでお勧めの授業の一つです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intro to American Government	アメリカ政治入門
科目設置学部・研究科	College of Arts and Sciences
履修期間	2015年8月～12月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Paul Mark Landow
授業内容	名前の通り、アメリカの政治システムに関する授業です。予習をしてきた箇所の重要な点について先生が説明をし、その後の時間は先生を交えた他の生徒とのディスカッションの時間になります。授業外では、オマハ市の市庁舎・裁判所の見学など普段は見ることのできない施設見学の機会も用意されていて満足度の高い授業でした。
試験・課題など	試験は2単元終わるごとにテストが1回あり、学期内に合計4回ありました。日本の政治システムをある程度理解している人にとってはあまり難しくない授業かもしれませんが、リーディングアサインメントの量はやはり膨大で、毎日多くの時間をこの科目の予習・復習に充てました。
感想を自由記入	基本的には日本とアメリカの政治システムが似通っているため、他の授業と比べると何か特別新しく得た知識というのは少なかつたかもしれません。しかし、大統領制や連邦制をとるアメリカとはやはり違いがあり、その違いに気付くことが大変面白かつたです。また、日本人の学生代表として日本の政治システムについて説明する機会があつたことも自国の理解を深めることにつながつたため良かつたと考えています。先生が元オマハ市市長室長であることなど、大変政治経験の豊富な方で、さまざまなコネクションがあることも魅力的です。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intro to International Relations	国際関係学入門
科目設置学部・研究科	College of Arts and Sciences
履修期間	2015年8月～12月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Nancy E Nicas
授業内容	国際関係学を学ぶ上での基本知識・専門用語の習得やそれに関連した歴史上の出来事・人物について学ぶ授業でした。教科書の内容に沿って先生が作ったパワーポイントを解説するところから始まり、その中で重要なキーワードや議論をすべきテーマがあつた時には時間を割いてディスカッションを行いました。
試験・課題など	試験は学期内に3回あり、期末テストは試験とエッセイを書くというものでした。難しい専門用語が多く大変苦労したのと、授業前の予習に多くの時間を割いたのを覚えています。
感想を自由記入	この授業を取ってよかつたと思うところは、自分がこの学問分野への興味があることがわかり、3年時から所属することになったゼミを選ぶきっかけとなつたこと、国際的な問題や事象に興味のある留学生やアメリカ人の学生と交流を持つことができたことだと考えています。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Race, Class & Gender	人種、階級と性別
科目設置学部・研究科	College of Public Affairs and Community Service
履修期間	2015年8月～12月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・ドキュメンタリー映画鑑賞・ディスカッション(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が1回
担当教授	Henry J D'Souza
授業内容	アメリカ国内に存在するさまざまな種類の差別やその歴史について学ぶ授業でした。また、食の安全の問題など人々の生活を脅かす問題についてもドキュメンタリーを視聴し、クラス内でディスカッションを行いました。
試験・課題など	テストは中間・期末テストの2回で、期末前にはワードで8枚ほどのレポートも課されました。課題に関しては毎回の授業で教科書を事前に読んでくることを除き、それ以外は課されませんでした。課題の量だけで考えると比較的、単位取得が容易な授業であつたと感じます。

感想を自由記入	私の留学目標の一つに、アメリカに存在する差別についての知識を深めるというものがあったためこの授業を受講することを決めました。先生はインドからの移民の方で、日本に関する見識も深く、留学生は一人だけでしたが授業についていけるよう色々工夫してくださいました。
---------	--

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intro to Aviation & Aerospace	航空宇宙学入門
科目設置学部・研究科	College of Public Affairs and Community Service
履修期間	2016年1月～5月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、プレゼンテーション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Scott Edward Vlasek
授業内容	航空業に携わっている会社・政府機関の役割・歴史について学ぶとともに、今後の航空業界の将来像を先生の講義や学生のプレゼンテーションを通しながら考えていく授業でした。
試験・課題など	テストは学期内に6回、そのほかにも毎回の授業ごとにクイズと呼ばれる小テストがありました。学期内に2回あったプレゼンテーションでは、自らの選んだ航空業界に関連する会社・機関について各回10分ほど話しました。その他、航空業界応募用のレジュメやレポートなども課題として出しました。
感想を自由記入	今振り返ってみると課題が大変多い授業であったと思います。前述したように、毎回のようミニテストや課題の提出があったため図書館に勉強をしに行く際には必ずこの科目の教科書が鞆の中に入っていました。大変だった分、得たものも多く、航空業界に対する興味が湧いたとともにつかは自家用の飛行機の免許もとってみたいと考えるようになりました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Public Speaking Funds	パブリック・スピーキング
科目設置学部・研究科	College of Communication, Fine Arts and Media
履修期間	2016年1月～5月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・スピーチ(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に50分が3回
担当教授	Jaime Marie Melton
授業内容	スピーチの種類や技法などについての紹介を授業内で行い、それを用いたスピーチを各生徒が月に一回ほど行いました。
試験・課題など	学期内に5回のスピーチがあるので毎回の授業でそれに向けた準備の課題が課されました。また、エクストラクレジットの課題として歴史上有名な演説家のスピーチをネット上で視聴し、その中で使用されている技法を研究するというものがありました。
感想を自由記入	ネイティブスピーカーがどのようにスピーチ・プレゼンテーションの方法を学んでいるのを知りたかったこと、実際にネイティブスピーカーと練習を行うことで自分の英語スピーチスキルが向上するかもしれないと思ったためこの授業を受講しました。最初は、発音が聞き取りにくいなどのコメントをフィードバックで頂いたものの、練習を重ねていくうちに上達を実感し、最後のプレゼンテーションではクラスメートからたくさん拍手をもらったことは今でも忘れられません。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Personal Finance	パーソナルファイナンス
科目設置学部・研究科	College of Business Administration
履修期間	2016年1月～5月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が1回
担当教授	Rob Randels
授業内容	お金と関連させて考える人生設計の方法について学びました。さまざまな金融商品(保険・証券・債権・ Mortgage など)の種類やその違いについて学び、実生活のどのような場面で購入すべきかなど授業を通して議論しました。また、利息計算などにも役立つ、金融電卓の使い方も教わりました。



<b>試験・課題など</b>	テストは3回ありました。毎回の授業で単元2つ、もしくは3つを終わらせるため、毎回の授業で膨大な量のリーディングアサインメントが出ました。また、単元ごとに3枚ほどの質問が書かれたプリントが宿題として課されました。
<b>感想を自由記入</b>	この授業を通して、お金の面から自分の人生設計を行う方法を学びました。前評判が大変良い人気の授業だったので受講できたことは大変幸運だったと思います。授業が進むスピードは大変速く、ついていくのが精いっぱいだったので、まだまだ理解できていないことがあります。それは自分で教科書を使いながら自習を行うことで補完していきたいと考えています。私がネブラスカ大学オマハ校で受講した授業の中でも最もお勧めの授業です。

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>	<b>履修した授業科目名(日本語):</b>
American History to 1865	アメリカの歴史(1865年以前)
<b>科目設置学部・研究科</b>	College of Arts and Sciences
<b>履修期間</b>	2016年1月～5月
<b>単位数</b>	3単位
<b>本学での単位認定状況</b>	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
<b>授業形態</b>	講義・ミュージカル鑑賞・ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
<b>授業時間数</b>	1週間に75分が2回
<b>担当教授</b>	Fredrick H Nielsen
<b>授業内容</b>	名前の通り、1865年以前(南北戦争終了まで)のアメリカの歴史について学んでいく授業です。ただ、歴史を学んでいくだけでなく先生の授業を面白くするための工夫が随所に見られ、どんな人でも歴史の虜となると思います。
<b>試験・課題など</b>	試験は学期内で3回ありました。基本は記述中心の試験であり、しっかりと講義を聞いていないとよい点数は期待できません。課題は特にありませんでしたが、リーディングアサインメントが課されました。
<b>感想を自由記入</b>	先生が大変知識豊か、かつ面白い方で歴史の授業を今までこんな楽しんだことはないと思うほど充実した授業でした。授業の様々なところに工夫がなされており、(例えば、アレクサンダー・ハミルトンについて学ぶときにはブロードウェイミュージカルのハミルトンを見ながら基本的な理解を進めていく。)私の友達の多くもこの先生の授業はお気に入りだと言っていました。お勧めの授業です!

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>	<b>履修した授業科目名(日本語):</b>
International Studies	国際問題研究
<b>科目設置学部・研究科</b>	College of Arts and Sciences
<b>履修期間</b>	2016年1月～5月
<b>単位数</b>	3単位
<b>本学での単位認定状況</b>	3単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
<b>授業形態</b>	講義・ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
<b>授業時間数</b>	1週間に150分が1回
<b>担当教授</b>	Patrick T McNamara
<b>授業内容</b>	このクラスは American Association of State Colleges and Universities (AASCU) という団体によって作られた共通プログラムが様々な大学で認定された教授によって教えられるというプログラムです。主に米国際問題戦略研究所の策定した7つの課題を2030年時点での世界の様子を予想した資料を用いながら認識していくというものです。
<b>試験・課題など</b>	試験は中間テストと期末テストの2回ありました。課題としては毎回の授業後にクラスページ上でクイズを解くことと、とある特定の国の人になりきってその国のことを調べ毎回1ページほどにまとめ提出するというものがありました。
<b>感想を自由記入</b>	共通プログラムで何度も講義され改善されたものであったため、大変内容が濃い授業でした。先生も世界の様々な国を旅した経歴を持ち、その中でもアフガニスタンやインド、日本に対する見識が深いため話を聞いているだけでもためになる授業でした。日本にもこのような授業があればと思います。

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	
4月～7月	TOEFL テスト対策開始
8月～9月	大学の夏季短期留学プログラムに参加(ニューヨーク)
10月～12月	TOEFL テスト受験(11 月) 協定留学への出願、面接試験(12 月)
2015年 1月～3月	明治大学から交換留学生としての内定(1 月) 現地大学への出願(2 月)
4月～7月	現地大学からの合格通知(5 月) 渡航準備(6 月) 秋学期受講授業の決定・アコモデーションの決定(6 月)
8月～9月	渡航(8 月) 秋学期授業開始(8 月)
10月～12月	中間テスト(10 月)、期末テスト(12 月) 春学期受講授業の決定(11 月) 冬休み(12 月)
2016年 1月～3月	春学期開始(1 月) 中間テスト(3 月) 春休み(1 週間ほど、3 月)
4月～7月	期末テスト(5 月) 帰国(5 月)
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	日本には学べないことを学びたいと思い、留学を決意しました。近年、日本では移民受け入れが一つの大きな政治問題テーマとして活発に議論されています。私も所属学部で多文化共生や国際教育交流について学んでおり、将来の日本を支えていく一人として・国際社会の一員として世界の様々な国の人の心や文化を理解する必要があると思いました。日本で「日本人」というマジョリティの中で快適な生活を送っている私が、その殻を破りマイノリティとなることで、世界に未だ存在する差別や不平等への理解が深められると思ったことも留学を決意する一つの要因となりました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	留学先に渡航してからの苦労を減らすためにも、少しでも語学能力を磨いておくといいと思います。留学中は膨大な量の課題をすべて英語で行わなくてはなりません。少しでも留学中の負担を減らすためにも大学受験の時に使った単語帳を見直したり、英会話を手伝ってくれる留学生のパートナーを探すなどして自らの英語力向上に努めるべきです。また、留学先の教授・学生からは日本の代表として扱われるため、日本文化や政治・経済等に対する理解を深め、どのような質問にも自信を持って答えられるようにしておくといと思います。
この留学先を選んだ理由	今までに訪問したことのない英語圏の地域で、のびのびとした学生生活が送れること、そして自分の専攻したかった国際関係学と経済学を学べるということでネブラスカ大学オマハ校への出願を決めました。また、アメリカの人種差別の歴史にも興味があり、公民権運動指導家のマルコム X がオマハの出身ということから、その分野について深く学ぶことができるのではないかと感じたことも決め手となりました。
大学・学生の雰囲気	郊外型のキャンパスであるため自然が多く、学生は基本的にフレンドリーな人が多いです。休みの日には広場で frisbee をしたりゲームをしたりする学生を多く見ることができ、私もそれに交じってゆったり流れる時間と東京では感じられないような自然の中で学生生活を送ることができると思います。ただ、オマハが小規模な都市であり休日には若者が出かけることのできる場所が少ないためか、内向的な学生が多いように感じました。
寮の雰囲気	毎月3、4回程度、寮に住む学生のみが参加できるイベントが行われていました。内容もパーティやゲーム大会、何かのテーマに沿ったレクチャーなど様々あり、これらのイベントを通して多くの友人関係を築くことができました。
交友関係	留学当初は英語で話しかけるのを恥ずかしがっていたために友達ができず苦労しましたが、開始後 1 か月を過ぎるあたりから多くの時間を現地で出会った友人と過ごすようになりました。私は国際交流系のイベントに参加することが多かったため、アメリカ人の学生だけでなく他の国からの留学生とも友人関係を築くことができました。留学後に振り返ってみると 20 か国以上の国からの学生と交流を持つことができたことに気が付きました。様々な国からの留学生と友人関係を築くことができることは、ネブラスカ大学オマハ校の良い点の一つだと思います。
困ったこと、大変だったこと	なるべく健康的な、バランスの良い食事をするために自炊をするように心がけていましたが、日本食の材料がなかなか手に入らないのと売っていても価格が普通日本で買える価格の数倍することは困りました。現地で手に入らないものは両親に日本から送ってもらったり、友人とより大きな都市に出かけた際に手に入れるようにしていました。
学習内容・勉強について	国際関係学と経済学を専攻しました。明治大学で私が今まで受けてきた授業とは大きく異なり、自らの意見を述べることが重視されました。最初は苦労しましたが、クラスの雰囲気に溶け込むにつれて発言回数も増えました。どのクラスにも積極的に留学生を助けてくれる学生がいて、その学生たちのお蔭で最初はつらかった勉強も徐々に楽しいものへと変わっていきました。
課題・試験について	課題やリーディングの量が多く、初めのうちは授業についていくのが精いっぱいでした。また、少しでもいい成績を取ろうと授業後の多くの時間を図書館で過ごすようになりました。授業数自体は日本の大学と比べると少ないため自由時間は多く、課題が早く終わった日や週末は必ず友人と外出をするようにして気分転換を図りました。試験に関しては、受講している授業数が少ないことからテストの数は減りますが、範囲が広いことと第二言語で勉強していることから明け方まで勉強するなど対策に多くの時間を割いたことを覚えています。頑張った分、成果が結果に反映されることも多く、あまり大変だったとは思っていません。
大学外の活動について	春学期の始めから週 1 回 3 時間程度、日本語を大学外で出会った友人に教えていました。大学外の人と交流を持つことは少なかったですが、何人かとボランティア活動などを通じて交流を持ち、今でも連絡を取り合っています。



留学を志す人へ	<p>協定留学は他の留学プログラムと比べると競争率が高く、出願や面接の際は準備に多くの時間がとられると思います。これらの準備がつらいと感じることもあると思いますが、留学に行きたいという強い意志を持ち続けることがそのつらさを乗り越えるためのカギです。最後まで諦めず、留学先への切符を勝ち取ってください。</p> <p>また、留学は参加すればよいというものではなく、その人の努力次第によって留学を通しての成長度が大きく変わるものです。留学の内定を頂いたからと言って慢心することなく、早め早めからそれに向けた準備を行ってほしいと思います。</p>
---------	--

## 1週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	起床・授業	起床・授業	起床・授業	起床・授業	起床・授業	起床・支度	起床・支度
	自習	自習	自習	自習	帰寮・昼食	友人と外出	友人と外出 もしくは自習
午後	授業	自習	授業	ジム	友人と外出	友人と外出	友人と外出 もしくは自習
	友人と夕食 自習	友人と外出	自習	自習	友人に日本語授業	友人と外出	友人と外出 もしくは自習
夕刻	授業	授業	自習	自習	友人と外出	友人と外出	友人と外出 もしくは自習
夜	帰寮	友人と外出	帰寮・自習	友人と外出 もしくは自習	帰寮・自習	友人と外出	帰寮・自習

